

研修で
学校が
変わる

中堅教諭等資質向上研修⑥

16年目研修② まとめ

令和3年12月3日（金）

Web会議による遠隔研修（各校）



「キャリアパスポートの実際」

講師 藤田 晃之 氏（筑波大学 教授）

【研修のねらい】

■ キャリア教育の背景や必要性の理解を深め、各学校の特色を生かしたキャリア教育を推進する。

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができること、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

キャリア教育を通して育てる
基礎的・汎用的能力

「課題対応能力」は、仕事を上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

例えば、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。（第1章3(2)③）

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

日本の教育の本当の危機

- ・ 学びに対する興味関心の希薄さ
 - ・ 将来との関連性が見えないままでの学び
 - ・ 受験終了後に剥落する「知」の危険性
- 回避のために、

極めて重要な各教科等を通じたキャリア教育の実践

これらは、「生きる力」（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）の中にあり、「生きる力」そのもの

キャリアパスポートで
学びをつなぐ

「要」活用の大前提

全ての教育活動を通じたキャリア教育の実践がないと、振り返ることはできない。

かなめ
要

学級活動・ホームルーム活動

(3)一人一人のキャリア形成と自己実現内容の取扱い

(3)の指導に当たっては、**学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら**、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童/生徒が活動を記録し蓄積する教材(=キャリア・パスポート)等を活用すること。

明日への想い（教育課程への位置づけ）

- ・ 各教科や学校教育の様々な場面でのキャリア教育の位置づけを再考したい。
- ・ 自分の夢をもつことや、将来どんな人になりたいか、という視点で、各教科とキャリア教育の繋がりを考えた日々の授業をしていきたい。
- ・ 特設教科に設定している9年間を通して育てたい資質・能力を、児童生徒に伝えやすい内容や表現に改良していきたい。（義務教育学校）

明日への想い（キャリアパスポートの活用）

- ・ キャリアパスポートを、児童の成長の記録としてそれぞれが自覚していけるように活用していきたい。
- ・ キャリアパスポートの活用にあたり、その単元や行事でどんな社会性を身につけていきたいか子ども達と確認してから学習するようにしていきたい。
- ・ 全体計画、年計の確認はもちろん、キャリアパスポートの教師のコメントも子ども達の成長を意識して書いていきたい。